

農福連携における社会的効果の類型化

利用対象：福祉事業所、農業者（施設外就労先）、農福連携支援者

<目的>

福祉事業所が行う農業活動（農福連携活動）による社会的効果の具体的な内容を明らかにするとともに、それらの類型化（見える化）を試みました。

<方法>

県内の5つの福祉事業所にインタビュー調査を行い、質的データ分析手法（SCAT）を用いて分析し、その結果からキーワードを分類することで具体的な効果内容を分類・整理しました。

<結果>

・社会的効果としては「直接的効果」と「間接的効果」の二つの効果に大別されました（図1）。
 ・直接的効果は「身体面・健康面」、「精神面・情緒面」、「生活面・仕事への取組姿勢」、間接的効果は「生活面・暮らしの環境」、「社会面」の各効果に具体的に分類されました（図1）。

<考察>

・「直接的効果」については、農福連携活動を行うことで、利用者である障がい者にとっては、目に見える、あるいは実感できる効果がどのように現れるかを具体的にイメージしやすくなったものと考えられます。
 ・「間接的効果」については、農福連携活動を行うことで、利用者である障がい者本人だけでなく、周囲に対する波及効果がさらに利用者自身にも好影響を及ぼす間接的な効果が現れることの理解を促すものを示唆するものと考えられます。

①直接的効果(利用者自身に直接的に発現する効果)

障がい者の自主性や自立心を高める

身体面・健康面	精神面・情緒面	生活面・仕事への取組姿勢
体力がついた よく食べるようになった よく眠れるようになった 肥満が解消した 風邪をひかなくなった 長い時間働けるようになった 薬の量が減った	感情面、精神面が落ち着いた 成功体験を通じて自信が高まった 好奇心が旺盛になった 自立心が高まった 表情が明るくなった 薬に頼ることが減った 物事に取り組む意欲が高まった	生活リズムが改善した 出勤率が向上した 自分でできることが増えた 積極性が増した あいさつができるようになった コミュニケーション力が高まった 協調性が高まった 忍耐力が増した 他者への気配りができるようになった 集中力が高まった 責任感が高まった

②間接的効果(利用者に対して間接的に影響を及ぼす効果)

障がい者の社会参加を後押しする

生活面・暮らしの環境	社会面
工賃が向上した 生活の質が向上した 自立した生活ができるようになった	一般就労の機会が増えた 一般就労者の定着率が高まった 福祉事業所と関わる取引先が増えた 福祉事業所外とのネットワークが構築できた イベントなどの交流機会が増えた 福祉事業所に対する認知・理解が進んだ 障がい者に対する認知・理解が進んだ

図1. 農福連携による福祉事業所や利用者に見える社会的効果の見える化

お問い合わせ先	生産技術研究室 地域連携研究課 石原 譲 電話 0598-42-6356
参考になる資料	http://www.pref.mie.lg.jp/nougi/hp/74882027005.htm